

DX 推進戦略計画

序章：DX 推進の背景と目的

株式会社 I.W.G（以下、当社）は、医療業界におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の重要性を深く認識しております。医療機関が直面する情報管理の非効率性、業務負担の増加、セキュリティリスクの高まりといった課題を解決するため、デジタル技術を活用した革新的なソリューションを提供することが、当社の重要な使命であると考えております。本戦略計画は、現状分析に基づき、DX を効果的に推進するための具体的な目標、戦略、体制、実施計画を体系的に示すものです。当社は、最新技術を積極的に導入し、医療業界の発展に貢献することを目指します。

第 1 章：現状分析と課題

1.1 医療業界と当社の現状分析

医療業界では以下の課題が顕在化しており、これらは当社が提供するソリューションにおいても対応が求められる重要なテーマとなっています：

- 情報管理の非効率性**：紙ベースの記録やレガシーシステムへの依存により、情報の断片化や共有の遅延が発生しています。
- 業務負担の増加**：医療従事者の業務負担が増加しており、効率的な

業務遂行が求められています。

- **セキュリティリスクの高まり**：患者情報の漏洩リスクが増大しており、強固なセキュリティ対策が急務です。
- **デジタル格差**：デジタル技術の活用が進んでいない医療機関が依然として存在し、地域間や医療機関間での情報格差が課題となっています。

こうした業界課題に対し、当社は医療機関向けのモバイル対応 AI プラットフォーム「DOCloud」を通じて、地域医療の DX を推進しています。これを支えるデジタルガバナンス体制を強化することで、以下の重要な認識に基づき具体的な解決策を講じる必要があります：

- **データの一元管理**：医療データの機密性を確保し、システム全体でセキュリティとプライバシー保護を強化する必要があります。
- **サイバーセキュリティリスクの対策**：進化するデジタル技術に対応し、プロアクティブな防御策を構築する必要があります。
- **デジタル人材不足**：高度な技術スキルを持つ人材の育成と確保が、DX 推進における重要な課題となっています。

当社はこれらの課題に対応し、医療業界全体の効率化や品質向上を目指す中で、自社ソリューションの強化を図るべき立場にあります。

1.2 当社の課題

当社においても、これらの課題に対応するため、以下の取り組みが必要です。

- **技術力の強化**：最新技術に関する知識やスキルの向上、および技術開発能力の強化が必要です。
- **ソリューションの拡充**：顧客のニーズに合ったソリューションを開発し、提供する必要があります。
- **セキュリティ体制の強化**：患者情報やシステムを保護するためのセキュリティ体制を強化する必要があります。
- **データの一元管理**：分散したデータを統合し、管理体制の効率化を進めることで、安全性と活用性を向上させる必要があります。
- **組織文化の変革**：DXを推進するための組織文化を醸成する必要があります。
- **デジタル人材の育成と確保**：DX推進を加速するため、高度な技術スキルを持つ人材を育成し、確保する必要があります。

第 2 章：経営ビジョンに基づくデジタルガバナンス方針

当社は経営ビジョンを実現するため、以下の基本方針に基づき DX を推進します。

1. 顧客中心主義とデータガバナンスの強化

顧客のニーズを最優先に考え、最適なソリューションを提供するだけでなく、顧客情報や医療データの安全性を確保するために以下を実施します：

- ISO 27001 に準拠した情報セキュリティ管理体制の導入
- データの適切な収集、分析、活用を保証するため、データの可視化とトレーサビリティの仕組みを整備

2. 技術革新と IT インフラの最適化

最新技術を積極的に導入し、既存システムの改善および新たなソリューションの開発を推進します。また、以下を通じて IT インフラの標準化と効率化を図ります：

- クラウドベースのプラットフォームを採用し、シームレスな運用を実現
- IT システムを最新の状態に維持するためのライフサイクル管理方針の策定

3. サイバーセキュリティ重視

患者情報やシステムを保護するため、強固なセキュリティ対策を徹底します。具体的には以下を実施します：

- AI を活用した異常検知システムの導入により、サイバー攻撃への対応力を強化

- 定期的なペネトレーションテストや第三者監査の実施で、リスクの早期発見と対策を推進

4. デジタル人材の育成と組織文化の変革

DXを推進するため、以下の取り組みにより人材育成と組織能力の向上を図ります：

- デジタルスキル標準（DSS）に基づく教育プログラムの導入
- 経営陣・管理職へのDX意識改革を促進し、DX推進部門を中心とした社内横断プロジェクトチームの設置

5. 協業体制と価値創出

外部パートナーとの連携を強化し、技術力や専門知識を活用して新たな価値を創出します。これにより、顧客や社会に対する持続的な価値提供を実現します。

第3章：企業経営および情報処理技術の活用に基づく具体的な方策

3.1 戦略ビジョン

「DOCloud：次世代医療データエコシステムの構築」をビジョンとして掲

げ、医療データの効率的な管理、共有、活用を促進します。

3.2 戦略目標

1. 情報管理の効率化

クラウドベースの医療データ管理システムを導入し、情報の集約化・共有化・活用を促進します。これにより、断片化された情報管理を統合し、効率的な意思決定を可能にします。

2. 業務効率の向上

AI を活用した診断支援システムや業務プロセスの自動化により、医療従事者の業務負担を軽減します。これにより、業務の迅速化と正確性向上を図ります。

3. セキュリティの強化

TICS 認証基盤を活用して、患者データとシステム全体のセキュリティ対策を強化します。また、プロアクティブなセキュリティ監視体制を整備し、データの安全性を確保します。

4. 顧客満足度の向上

顧客のニーズを最優先に考慮し、それに適したソリューションを提供します。これにより、顧客満足度を向上させ、長期的な関係を構築します。

5. 競争優位性の確立

革新的な技術とソリューションを提供することで、市場における競争優位性を確立します。これには、AI やクラウド技術を駆使した新製品の開発や既存ソリューションの最適化が含まれます。

3.3 DX トランスフォーメーションの取り組み

1. 業務プロセスのデジタル化

従来のアナログ業務をデジタル化し、統合的なシステムを構築します。これにより、業務効率化と意思決定の迅速化を実現します。

2. データ駆動型経営の実現

社内外のデータを一元管理し、リアルタイムでのデータ分析を可能にする仕組みを整備します。これにより、データに基づく最適な経営判断を支援します。

3. 顧客中心のサービス提供モデルへの変革

顧客データを活用してサービスを個別化し、顧客に対する価値提供を最大化します。また、サービス開発プロセスを最適化し、顧客ニーズに迅速に応える体制を構築します。

このように、戦略目標と DX トランスフォーメーションの具体的な取り組みを一体化することで、IWG は医療業界における持続可能な

成長を目指します。

3.4 具体的戦略

以下は、IWG が DX を推進するために取り組む具体的な戦略です。

1. クラウド基盤の構築

- 医療データ管理に特化したクラウドプラットフォームを構築します。これにより、社内外でのデータ共有とアクセスを迅速化し、生産性を向上させます。
- TICS 認証基盤を活用し、GDPR および ISO 27001 に対応したデータ管理体制を整備します。これにより、医療データのセキュリティとコンプライアンスを確保します。
- クラウドサービスとして Microsoft Azure、AWS、Google Cloud などの導入を検討します。

2. AI 技術の活用

- 診断支援、画像解析、レポート作成などの AI モジュールを開発し、医療現場での効率性と精度を向上させます。
- 業務フローの中で繰り返し作業やデータ入力業務を**RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）**で自動化し、人的ミスの削減と業務効率の 20% 向上を目指します。
- データレイクを構築し、業務データや顧客データを一元管理。これにより、機械学習モデルを活用した分析基盤を整備し、診療ワー

クフローの最適化を支援します。

3. モバイルソリューションの提供

- 医療従事者が場所を問わずデータにアクセスできるモバイルアプリを開発します。これにより、医療業務の柔軟性と迅速な対応を可能にします。

4. データ連携基盤の構築

- HL7 FHIR などの標準規格に準拠したデータ連携基盤を構築し、異なるシステム間でのデータ共有を促進します。
- 医療機関から収集したデータを基に診療ワークフローの分析と最適化を図ります。

5. 業務管理のデジタル化とサプライチェーンの最適化

- 医療機器供給チェーンをデジタル化し、在庫管理や需要予測をリアルタイムで行えるシステムを導入します。
- 医療機関への即時配送を可能にする仕組みを整備し、サービスのスピードと信頼性を向上させます。

6. 人材育成と組織文化の変革

- 社員のデジタルスキル向上を目的とした研修プログラムやワークショップを実施します。これには、クラウド利用方法、データ分析

スキル、AIモデリングの教育が含まれます。

- 組織間の壁を取り払う横断的なプロジェクト体制を確立し、イノベーションを促進する組織文化を醸成します。

7. セキュリティ体制の強化

- 多層防御戦略を採用し、サイバー攻撃への対応力を強化します。
- 定期的なセキュリティ監査や第三者監査を実施し、継続的なセキュリティの改善を行います。

8. 外部連携

- セキュリティ専門家、AI技術専門家、医療機関などと連携し、ソリューション開発や技術支援を推進します。
- 事業拡大に向けて外部パートナーとのコラボレーションを積極的に活用します。

これらの具体的戦略を実行することで、IWGは医療業界のDXをリードし、効率性、セキュリティ、顧客満足度の向上を実現します。

3.5 DX トランスフォーメーションの取り組み

第4章：DX戦略推進に必要な体制・組織及び人材の育成・確保戦略

4.1 体制・組織の構築

IWGのDX戦略を推進するため、以下の組織構造を整備します：

1. DX推進専任チームの設立

名称: デジタルトランスフォーメーション推進部 (DX推進部)

目的: DX戦略の実行と進捗管理、部門間連携の促進。

構成:

役割	担当者	詳細
リーダー (DX責任者/CDO)	周曉妍	戦略全体の統括を担い、経営陣にDX視点を反映。
データアナリスト	郭曉曦	データ分析を行い、DX推進に必要なインサイトを提供する。
技術導入チーム	曹達	クラウドエンジニア、AI開発者、セキュリティ専門家などから構成され、技術導入を支援する。
業務プロセス改善チーム	白帆	各部門から選出されたプロセスオーナーで構成され、業務プロセスの改善を推進する。

2. 横断的プロジェクトチームの設置

- **目的:** 部門間の壁を取り除き、現場の課題をDX推進部と連携して解決。

- **特徴:** 現場担当者と専門家が協働で活動し、具体的な成果創出を目

指す。

4.2 必要となる人材

DX 戦略を効果的に進めるため、内部で育成すべき人材と外部から確保すべき人材を明確化します。

1. 内部で育成すべき人材

- デジタルリーダー：

部門内で DX 推進を主導する人材を育成。リーダーシップ研修やデータ分析スキルを習得。

- データアナリスト：

データ解析を通じて意思決定を支援。BI ツールやプログラミングスキルを育成。

- サイバーセキュリティエキスパート：

リスク評価と対策を担う専門人材。資格取得支援を提供。

2. 外部から確保すべき人材

- クラウドエンジニア：

医療データ管理や AI 基盤構築に不可欠な専門知識を持つ人材を外部から調達。

- データサイエンティスト：

高度な分析技術と AI モデル構築能力を持つ人材を学術機関やリクルートプログラムを通じて確保。

4.3 外部組織との関係構築

DX戦略の円滑な推進を支援するため、外部組織との連携を強化します。

1. コンサルティングファームとの協業

データ活用戦略や業務改善のロードマップ作成。

2. 医療機関ネットワークとの協力

実証実験を共同で実施し、現場での効果を検証。

3. 公的支援プログラムの活用

経済産業省やIPA 提供の助成金を申請。

第5章：実施計画

5.1 短期計画（2024年～2025年）

- クラウド基盤構築：TICS認証基盤を活用したクラウドプラットフォームの構築を開始します。
- AIモジュール開発：診断支援AIモジュールの開発を開始します。
- モバイルアプリ開発：医療従事者向けモバイルアプリの開発を開始します。
- 人材育成：デジタルスキル研修を実施します。
- セキュリティ対策強化：ネットワークセキュリティ対策を実施します。

5.2 中期計画（2026年～2028年）

- クラウド基盤拡張：クラウドプラットフォームの機能拡張を行います。
- AI モジュール導入：開発した AI モジュールを導入します。
- データ連携：HL7 FHIR に準拠したデータ連携基盤を構築します。
- RPA 導入：定型業務の自動化を開始します。
- 組織文化変革：イノベーション促進活動を開始します。
- セキュリティ監査：セキュリティ監査を定期的に実施します。

5.3 長期計画（2029年以降）

- サービス拡充：新しい医療 DX サービスの開発を継続的に行います。
- グローバル展開：海外市場への展開を検討します。
- データ活用：医療データの分析と活用を進め、医療の質向上に貢献します。

第 6 章：DX 戦略の達成状況と課題把握の指標

当社は、DX 戦略の進捗状況を評価し、課題を的確に把握するため、以下の指標と方策を採用します。これにより、経営者のリーダーシップの下、継続的な改善と持続的な成果を実現します。

6.1 課題把握の基本方針

1. IT システムとデジタル技術の現状分析

社内 IT システムの現状評価と、デジタル技術とのギャップ分析を定期的 to 実施します。

2. 現場の声を反映

従業員や顧客からのフィードバックを収集し、現場での課題を明確化します。

3. 成果指標（KPI）を基にした評価

定量的・定性的なデータを活用し、戦略の進捗状況と課題を評価します。

6.2 戦略達成状況の評価指標（KPI）

以下の KPI を用いて、DX 戦略の進捗状況を継続的に測定します：

1. IT システムと運用効率の指標

2. DX 戦略の効果指標

- 業務効率化：RPA 導入による年間手作業削減時間を測定。
- 顧客満足度：DX ソリューション導入後の顧客アンケートで 80% 以上の評価を目指します。
- 新規サービス導入率：AI 活用の診療支援機能の導入件数を測定。

3. デジタル人材育成の進捗指標

- 社員のスキル向上率：社内資格取得者数を年間 20%増加。
- 研修受講率：DX 教育プログラムの初年度受講完了率を 80%とします。

6.3 課題把握と解決に向けた具体的方策

1. DX 推進指標を活用した自己分析

- 経済産業省の「DX 推進指標」を基に、部門ごとの自己評価を実施し、課題を抽出します。
- 半年に 1 回、専任チームが評価結果を集計し、取締役会で共有します。

2. デジタル技術動向のモニタリング

- 医療分野における AI や IoT、クラウドの最新動向を把握し、自社システムとの比較を行います。
- 国内外のカンファレンス参加や専門機関との連携を活用します。

3. IT システムの定期的なアセスメント

- 内部監査と外部監査を組み合わせ、システムの安定性、セキュリティ、データ管理の効率性を評価します。

4. 関係者との対話

- 顧客アンケートや取引先とのワークショップを通じ、外部の視点を取り入れて課題認識を深めます。

6.4 課題解決プロセスとフィードバック

1. 評価と改善プロセス

- 各 KPI を基に四半期ごとに達成度を測定し、課題を詳細に分析します。
- 改善策を各部門から提案し、DX 推進委員会で承認します。

2. 全社および対外的なフィードバック

- 経営会議で評価結果を共有し、次の施策を議論します。
- 社員向けタウンホールミーティングやプレスリリースを通じて、成果と目標を発信します。

この指標と方策を組み合わせることで、DX 戦略の達成状況を適切に管理し、経営目標の達成に向けた継続的な改善を実現します。

第7章：実務執行総括責任者による情報発信

実務執行総括責任者（代表取締役社長）は、以下の方法で効果的な戦略推進を図るための情報発信を行います。

- 定期的な進捗報告：DX戦略の進捗状況を社内全体に定期的に報告します。
- 成功事例の共有：DX推進における成功事例を社内全体に共有し、モチベーション向上とベストプラクティスを促進します。
- 意見交換会の実施：全社員がDX推進に関する意見やアイデアを自由に発言できる場を設けます。

第8章：情報処理システムにおける課題把握

実務執行総括責任者が主導的な役割を果たし、以下の方法で事業者が利用する情報処理システムにおける課題を把握します。

- 直接的なヒアリング：医療現場の担当者や利用者に直接ヒアリングを行い、システムの課題や改善点を把握します。
- システム利用状況の分析：情報処理システムの利用状況を分析し、ボトルネックや改善の余地を見つけます。
- アンケート調査：システムの使いやすさや満足度についてアンケート調査を実施します。

第 9 章：サイバーセキュリティ対策の策定・実施

および監査概要

当社は、「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」に基づき、以下の基本方針に従いサイバーセキュリティ対策を策定および実施しています。この計画は、多層防御、定期的な監査、脆弱性診断、インシデント対応の各側面から、セキュリティの高い水準を維持しながら DX 戦略を支える基盤を提供することを目指します。

9.1 基本方針

1. リスクの最小化

サイバー攻撃の影響を防止・最小化することを目的とします。

2. データの保護

医療データや顧客情報など、機密性の高い情報を適切に管理します。

3. 継続的改善

定期的な監査・評価を通じて、対策を更新・強化します。

4. コンプライアンスの徹底

TICS 認証の維持、GDPR 準拠、ISO 27001 認証の取得を目指し、法的要件を遵守します。

9.2 サイバーセキュリティ対策の具体的取り組み

1. 多層防御の導入

ネットワークセキュリティ、アプリケーションセキュリティ、データベースセキュリティ、エンドポイントセキュリティの多層防御を採用し、外部からの不正アクセスや内部のリスクを最小化します。

2. 脆弱性診断の実施

定期的な脆弱性診断を実施し、セキュリティ上の弱点を早期に発見・対応する体制を整備します。特にクラウド環境やIoTデバイスも対象とした診断を計画的に進めます。

3. インシデント対応計画

セキュリティインシデント発生時に迅速かつ効果的な対応を可能にするため、以下を整備しています：

- インシデント対応フローの策定
- 社内外関係者への速やかな通知と対応手順の共有
- 対応後の再発防止策の策定

4. セキュリティ監査の実施

内部監査（半年に1回）および外部監査（年2回）を計画的に実施し、ペネトレーションテストやセキュリティ方針の適合性を評価します。また、クラウド環境のセキュリティ評価を強化します。

5. 継続的な教育と組織的対策

セキュリティ委員会を設置し、全社員に対する年2回のセキュリティトレーニングを実施しています。また、登録情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）がセキュリティポリシーの策定・監査対応を担当しています。

9.3 改善計画

1. 短期計画（半年以内）

定期監査項目にクラウド環境評価を追加
IoT デバイス管理ルールの新設

2. 中期計画（1年以内）

外部監査の頻度を年2回に増加
登録セキスペの増員（+1名）

3. 長期計画（3年以内）

ISO 27001 認証取得を目指し、セキュリティ体制を強化
AI ベースの脅威検知システムを全面導入

この包括的な対策と改善計画により、当社はセキュリティ体制の高度化とDX推進の両立を図り、持続可能な経営基盤を確立します。

結論

当社は、本戦略計画に基づき、医療 DX を積極的に推進し、医療機関の効率化と質の向上、および患者ケアの改善に貢献することを目指します。最新技術の導入と、社内外の連携を強化し、持続可能な成長を達成します。

株式会社 I.W.G

代表取締役

周 曉妍